

日豪 EPA 発効について

このたびの日豪 EPA(経済連携協定)の発効を歓迎いたします。

豪州牛肉業界にとって、日本は長年に渡る重要なパートナーであり、2014年においても、全体輸出量のおよそ4分の1の29万4,000トンが日本に向けて出荷されました。

日豪 EPA 合意のもと、日本に輸入される豪州産冷凍牛肉は現行の38.5%の関税率から18年かけて19.5%まで低減され、また冷蔵牛肉については15年間で38.5%から23.5%まで引き下げられることとなります。

協定1年目(2015年1月15日～2015年3月31日)には、豪州産冷凍牛肉の関税は8%減の30.5%に、冷蔵は6%減の32.5%へ引き下げられます。2年目(2015年4月1日～2016年3月31日)は、それぞれ28.5%、31.5%へ低減されます。

今後、関税が段階的に低減されることで、日本人の重要なたんぱく源として豪州産牛肉が重要な位置づけになっていくことを期待します。また引いては、日本の牛肉消費の回復に繋がれば、と願う次第です。

これまで以上に、小売、外食などの業界の皆様方とのパートナーシップをより深めていき、安全で高品質なオージー・ビーフを引き続きご提供してまいります。消費者の方々にも、さらに豪州産牛肉の美味しさや高い栄養価、使い勝手の良さを知っていただけるよう、「オージー・ビーフで元気！」のスローガンの下、2014年7月から一新したオージー・ロゴとともに、新たなブランディング活動を展開してまいります。

詳しくはこちらをご覧ください。<http://www.aussiebeef.jp/b2b/summary/epa.html>

今後とも引き続き、オージー・ビーフをご愛顧の程、よろしくお願い申し上げます。

MLA豪州食肉家畜生産者事業団
駐日代表 アンドリュー・コックス